

<鳩胸>

今回は鳩胸についてご紹介します。これは胸骨（胸の真ん中にある縦に長く触れる骨）が鳩の胸のように前方に突出し、胸郭の前後径が大きくなります。原因としては、先天的に胸骨・肋軟骨・肋骨の変形、特に胸骨と肋骨を繋ぐ肋軟骨の過度な成長によるものとされています。同一家系に発症することが多く、遺伝的素因があると考えられています。出生後しばらくは気づかれず、男女比は5対1の割合で男性に多く見られます。

【症状】

変形が見られますが、無症状のことが多いです。しかし、変形する事によって美容上の精神的苦悩のほうが問題となります。

【診断】

特異な胸郭の変形から容易ですが、胸骨の状態、心臓や肺への影響を調べるためにX線検査、CT検査、MRI検査、心電図検査などを行うことがあります。

【治療法】

生まれつきのもので軽度であれば、発育とともに目立たなくなりますが前胸部の突出変形が気になれば、3歳以降に手術を行います。術直後の合併症の頻度は少ないですが、無気肺や肺炎が考えられます。発症は3歳頃と10歳頃の2つのピークがあり、発症後2年間は変形が進行するので2年以上待機してから手術を行えば再発することはないと言われています。上記のように鳩胸は変形が特徴的ですので、前胸部が異常に膨らんでいるなどの気になる事があれば、お近くの医療機関に受診されることをお勧めします。